

2019年12月1日～2020年2月29日の間に  
高齢者救急集中治療に対してフレイルが及ぼす影響についての多施設共同研究  
Looking into Intensive care setting on Frailty of Elderly (LIFE) Studyに参加された方および  
そのご家族の方へ

—「高齢者救急集中治療における予後予測モデルの検討 (Post-hoc 研究)」へご協力のお願—

研究機関名 岡山大学病院

研究責任者 岡山大学病院 救命救急科 医員 稲葉基高

### 1) 研究の背景および目的

私たちは現在、高齢者が救急車で運ばれてきた際に、集中的な治療がどの程度役立つのかを再評価し、その結果から皆様の未来の健康状態を予測する新しい方法を開発する研究を進行中です。

この研究は、高齢者の皆様の生活の質 (QOL) を考慮に入れ、あわせて高齢者の意見を尊重しようという視点から進められています。具体的には、「LIFE Study」という前回の研究で集められたデータを使用し、そのデータから重要な予測変数を選び出し、予測モデルを作成します。作成した予測モデルの妥当性を確認するため、データをいくつかのグループに分けて検証します。

この研究の結果により、高齢であることを理由に必要な治療が省かれることがないように、また逆に過度な治療を避けるための具体的な根拠を得られることを期待しています。そしてこれらの成果は、救急・集中治療の現場だけでなく、地域での高齢者のケア全体における治療方針の決定においても参考になることでしょう。

### 2) 研究対象者

2019年1月1日～2020年2月29日の間に高齢者救急集中治療に対してフレイルが及ぼす影響についての多施設共同研究に参加された方 955名を研究対象とします。

### 3) 研究期間

研究機関の長の許可日～2028年3月31日

### 4) 研究方法

研究者が診療情報をもとに患者さんの背景、重症度、予後のデータを選び、死亡率、ADL、QOL 関する分析を行い、予後予測モデルを作成します。

### 5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

診療情報：

- 1) 研究参加施設情報
- 2) 患者基本情報
- 3) 治療内容
- 4) 重症度

- 5) 治療結果
- 6) 入院時質問紙による調査
- 7) 6か月後質問紙による調査

#### 6) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院救命救急科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

#### 7) 研究資金と利益相反

この研究に関して利害関係が想定される企業等で研究責任者や分担者あるいはその家族が活動して収入を得ているようなことはありません。

#### 8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

#### <問い合わせ・研究への利用を拒否する場合の連絡先>

岡山大学病院 救命救急科

氏名：内藤宏道、稲葉基高

電話：086-235-7427（平日：8時30分～17時00分）